

第22回定時株主総会における主なご質問と回答の要旨

No	質問内容	回答要旨
1	株価対策について	<p>株価に関する施策としては次の5つがあげられます。1点目は、業績および配当に関してです。年初に公表した業績予想を株主様へのお約束として、全社をあげて取り組んできた結果、1株当たり利益を予定どおり達成し、皆様に還元することができました。2点目は、OIS(日本オラクルインフォメーションシステムズ)社との連携について整理してきたことです。3点目は、上場維持の問題をクリアしたことです。4点目は、IR活動です。当社の企業価値を正確に皆様にお伝えするため、ホームページの拡充、マスコミ・アナリストへの説明会、機関投資家の皆様への説明会やインタビュー等を数多く行ってきました。今後は、個人投資家に対する説明、また海外の株主に対する説明なども拡大していきたいと考えております。5点目は、その他の施策です。株式分割、自己株式取得、単元株数のくり直しなどが考えられますが、これらの点については、引き続き実効性・可能性を検討していきたいと考えています。</p> <p>昨年より、事業の基盤を広げる施策がスタートしたばかりです。二桁成長という目標をきっかけ、事業規模を拡大し、収益の規模を拡大するという拡大路線への展開を、堅実に成し遂げていくことにより、市場の期待を越えるよう、最大の努力をしていきたいと考えております。</p>
2	親会社のオラクル・コーポレーションの株をいくらかずつ個人株主だけに贈与してはどうか。	貴重なご意見として、当社内での検討の材料とさせていただきます。
3	リレーショナル・データベースからXMLデータベースへ、という動きがあるようだが、オラクルの販売戦略は大丈夫なのか。	当社のDBの中にXMLを取り込むための技術を既に有しております。リレーショナル・データベースとXMLとは競合するものではなく、共存共栄できるものであり、この点についてはご安心いただきたいと思います。
4	配当性向がなぜ100%を切っているのか。	あくまでも年初にお約束していた額を計画どおり実施してお届けすることを基本方針としており、今期もその方針です。昨年は、当初の計画よりも利益は少し上回りましたが、若干の余裕ができただけであり、当初お約束した配当金額を維持するという基本方針を継続いたしました。今後も、まずは当初お約束した金額をできるだけ守り、また毎年増配をしていくための施策をとってきたいと考えております。
5	貸借対照表の建設仮勘定156億円の中身と未払いの部分について、また本社ビルの取得の経緯について知りたい。	本社ビルは来年秋に完成し、都内に分散しているオフィスを集約して、年間の賃貸料を削減し効率的にオペレーションする予定です。ビルの取得については、2005年11月に取締役会で決議いたしました。総額が435億円で、これまでに2回中間金の支払を終えており、その累計値が156億円となります。最終の支払は来期に発生する予定です。
6	配当も利益も増えているのに企業価値が上がらない、ということについての社長の認識をうかがいたい。	3年くらい株価が一定の範囲でとどまっていることについて忸怩たる思いはありますが、継続的に戦略を開示し、その実績を披露することが原点だと考えております。
7	オラクル・コーポレーションからの社外取締役には、日本オラクルからのストックオプションを含めた報酬がどのくらい支払われているのか。	当社のストックオプションは、当社の従業員および社内取締役、つまり業務執行取締役に配分されるものであります。オラクル・コーポレーションからの社外取締役は、日本オラクルからの報酬を受け取っておりません。
8	本社ビル完成後は、株主総会を本社ビルの会議室で実施して欲しい。	キャパシティや設備の問題もあるので、貴重なご意見としてうけたまわり、社内で検討させていただきます。
9	配当により75%の大株主である米国本社が一番利益を得ているのではないか。	オラクル・コーポレーションは配当について、日本オラクルの取締役会に一任しており、過去は株主総会に一任してまいりました。配当に関して何らかの主張がオラクル・コーポレーションから行われてきたということはありません。発行済株式の約74%を有する大株主として、その持ち分に応じた価値が得られるものと理解している、と考えております。
10	長期保有の株主に対してなんらかの優遇策をとってはどうか。	長期保有の株主様に対する優遇策につきましては、他社の例などを研究していきたいと考えております。